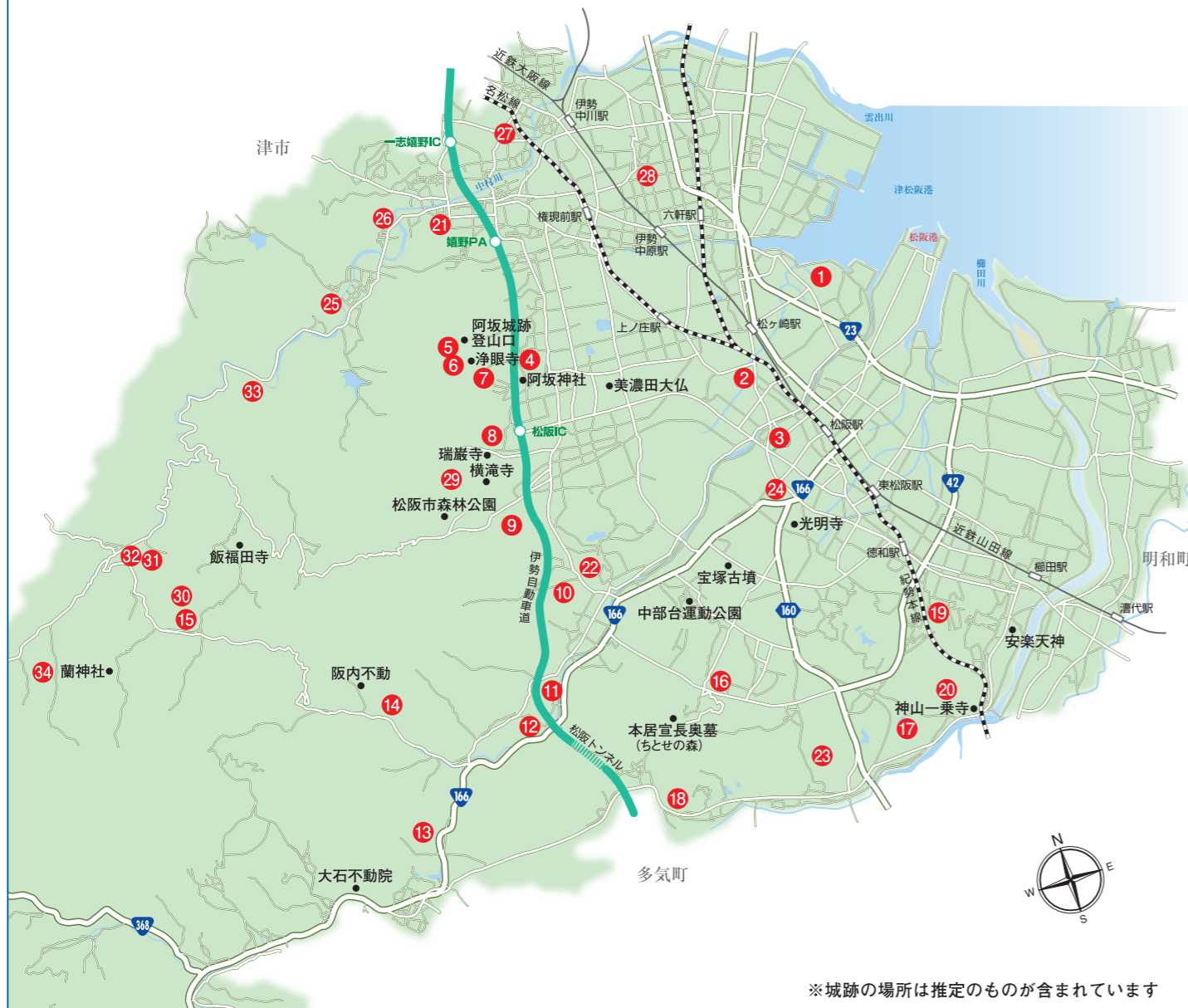


# 松阪の城跡めぐりMAP



※城跡の場所は推定ものが含まれています

- |               |         |         |         |         |
|---------------|---------|---------|---------|---------|
| ① 松ヶ島城跡       | ⑧ 岩内城跡  | ⑮ 柚原城跡  | ⑳ 白山城跡  | ㉑ 天ヶ城跡  |
| ② 船江城跡        | ⑨ 伊勢寺城跡 | ⑯ 山室城跡  | ㉒ 矢倉山城跡 | ㉒ 黒米城跡  |
| ③ 松坂城跡        | ⑩ 岡ノ谷城跡 | ⑰ 尾ヶケ館跡 | ㉓ 黒田城跡  | ㉓ 小原城跡  |
| ④ 高城跡         | ⑪ 大河内城跡 | ⑱ 上山城跡  | ㉔ 滝之川城跡 | ㉔ 小原西城跡 |
| ⑤ 阿坂城跡 (椎之木城) | ⑫ 脇谷城跡  | ㉕ 浅掘木城跡 | ㉕ 釜生田城跡 | ㉕ 矢下城跡  |
| ⑥ 阿坂城跡 (白米城)  | ⑬ 六呂木城跡 | ㉖ 神山城跡  | ㉖ 天花寺城跡 | ㉖ 上小川城跡 |
| ⑦ 枳城跡         | ⑭ 阪内城跡  | ㉗ 八田城跡  | ㉗ 須賀城跡  |         |

お問い合わせ先

松阪駅観光情報センター (JR松阪駅前)  
 TEL 0598-23-7771 FAX 0598-26-4778  
 営業時間 / 9時～18時 定休日 / 年末年始  
<https://www.matsusaka-kanko.com/>

松 阪 市  
 TEL 0598-53-4196 FAX 0598-22-0003



# 松阪の城跡めぐり





▲松坂城跡

# いにしえの城郭に 思いを馳せて。

伊勢国司「北畠氏」や戦国の名将「蒲生氏郷」などが築いた城の跡が、市内の随所に見られます。

ここでは、代表される城跡の紹介と北畠氏統治時代にあった数々の城郭位置等を紹介しします。

## 国指定史跡 松坂城跡

天正12年(1584)、豊臣秀吉により松ヶ島城に封ぜられた蒲生氏郷は飯高郡矢川庄四五百森の独立丘陵に目をつけ、松坂城を築城。天正16年(1588)に入府した。

城は東を大手、南を搦手とし、外郭に深田堀及び水堀をめぐらし、本丸、二ノ丸、三ノ丸、きたい丸、隠居丸といった郭により構成され、本丸、二ノ丸、きたい丸、隠居丸には高石垣を築き、三ノ丸の外側には土塁が巡ったという。天守台は中央よりやや西に寄り、ここに三層の天守がそびえ、それをとり巻いてそれぞれの郭に敵見、金の間、月見等の櫓が配されていた。

氏郷は城下町の建設も積極的に進め、城付近の大手町の四つ辻には松ヶ島町の旧家蔵方を移住させ、町の中央に近江日野の商人を、湊町に伊勢大湊の豪商角屋氏を呼び寄せた。そして、海岸線近くを通っていた伊勢街道を城下に引き寄せ、商業の自由を保証し、後の商都松坂の基礎を築いている。

入府後間もない天正18年(1590)、氏郷が小田原合戦の功により、42万石の太守として黒川(会津)に移封されたため、翌年、服部采女正一忠が3万5千石を領して松坂城主となっている。後、一忠は秀次事件に連座してその罪を秀吉に問われ、文禄4年(1595)切腹自害して果てた。同年、古田兵部少輔重勝が次いで城主となり、3万4千石を給せられ、関ヶ原役の後、2万石を加増されている。重勝は慶長11年(1606)江戸で亡くなり、その子重恒は幼少のため弟重治が城主となった。元和5年(1619)紀州徳川家の祖、徳川頼宣の領地となったため、石州浜田に移っている。以後、松坂には勢州18万石を統轄する紀州藩松坂城代が置かれた。

紀州藩領下の松坂城に関して、江戸時代前期の資料には正保元年(1644)に天守が大風のため倒壊して土台だけになったと記されている。

その後、寛政6年(1794)には二ノ丸に徳川陣屋が建てられているが、これは明治10年(1877)、失火により惜しくも焼失した。残っていた他の表門、裏門、中門、土蔵等も明治14年(1881)頃までには取り壊された。当時の城中の建物としてはもと隠居丸にあったとされる米蔵が、現在、御城番屋敷土蔵として残っている。



▲松坂城跡(松坂城跡碑)

### 松坂城跡平面図



## 県指定史跡 松ヶ島城跡

松ヶ島はかつて細首といひ、永禄10年(1567)頃、北畠具教が織田信長の南伊勢侵攻に備えて城を築き、家臣日置大膳亮に守らせた。そして、同12年の織田軍来攻に際して大膳亮は細首城を焼いて大河内城に籠もったという。

同年、織田軍と北畠軍の和議成立によって北畠の家督を継いだ信長の二男信雄は、居城田丸城(現度会郡玉城町)が天正8年(1580)焼失したのを機に細首城に移り、松ヶ島城と改称した。信雄は南伊勢統治の拠点として城地を大改修して天守を備えた本格的な平城を築いた。

天正10年(1582)、本能寺の変で信長が倒れると信雄は尾張清洲城に移り、松ヶ島城には家臣津川玄蕃允をおいた。同12年、信雄と羽柴秀吉が対立する事態に至ると、玄蕃允は信雄に謀殺されて、代って滝川雄利が籠城したが、秀吉軍の猛攻にあい落城し、秀吉の信頼厚い蒲生氏郷が12万石の大名として入城した。しかし、天正16年(1588)松坂城を築いて南伊勢統治の要を移したことによって、約20年間に幾度かの転変を遂げた城もついに廃城となった。このとき、松ヶ島の城郭も取り払われ、城下の町民も強制的に松坂城下に移住させられ、松ヶ島を通っていた従来の伊勢街道も松坂城下経由につけ替えられた。

三井文庫にある明治初期と考えられる「松ヶ島村図」によれば、堀之内、丸之内とあり、堀之内の一隅に天守跡と記されている。堀之内、丸之内は本丸・二ノ丸に相当するものであり、堀之内は三方を堀で囲まれ、さらに丸之内・殿町を加えた外郭の周囲には入江と流路と、それらをつなぐ堀割が描かれ、伊勢湾に面して防備を固めていた城の様子が想像される。

現在、城跡は三渡川右岸の海岸線から500メートルの地点に天守山といわれる20メートル四方の台状地を残すのみである。また天守山付近から古瓦片・天目茶碗片が出土しており、古瓦片には金箔の残るものもあってかつて五層の天守がそびえていたという城の偉容がしのばれる。



▲松ヶ島城跡

## 県指定史跡 大河内城跡

大河内城は、松阪市街の中心から西南方向、7.5キロメートル離れた阪内川中流域、矢津川が合流する地点に突き出た標高約110メートルの丘陵先端部一帯に築かれている。

北畠満雅が足利軍と一戦を交えようとして、応永22年(1415)に弟顕雅をこの城に籠もらせたといい、それ以後、北畠氏の南伊勢支配の一拠点として顕雅の子孫が大河内御所を称した。そして、織田信長が



▲大河内城跡

永禄12年(1569)8月に、南伊勢へ来攻した際、北畠具教は本拠を上多気からこの城に移して織田軍を迎え撃った。この戦いの模様については、『信長公記』に織田軍側から次のように語られている。

北畠具教が立て籠もった城を攻略しようとして信長は城の東の山に本陣を構え、8月27日夜、城下の町を焼き払い、28日に四方を巡見して木下藤吉郎・氏家全らの武将を配して自陣を固めて万全の態勢をとったのち、9月8

日夜、西の搦手より攻撃をかけたが、雨天のため鉄砲が使えず、屈強の侍20余人が討死した。翌9日、滝川一益の手勢が国司館を始めとしてことごとく焼き払い、城下の作物もすべて刈り払って城中を干殺する作戦を立てて持久戦に持ち込んだところ、やがて城中に餓死者が出るなどして動揺が起り、具教が伊勢国司北畠家の家督を信長の二男茶釜丸(のちの信雄)に譲る和議が両軍の間で成立し、10月4日、具教は大河内城を滝川一益・津田掃部の2人に明け渡して「笠木坂ない」へ落ちて行った。戦いは終始織田軍の攻囲下で進められ、4万ともいわれる織田軍と対峙して、1万にも満たない北畠軍が1ヶ月以上もこの城を持ちこたえたが、ついに持久戦には勝てず、北畠氏が織田の軍門に降った様子が活写されている。その後、大河内城は家督を継いだ信雄の居城となったが、天正3年(1575)に度会郡に田丸城を整備してそこへ移ったため廃城となり、現在に至っている。

現在は本丸跡といわれる40×60メートルの台状地を中心に堀切をはさんで西の丸とよばれる30×35メートルの台状地がある。また、本丸跡の南側の一段低い場所には二ノ丸・御納戸・馬場跡があったとされている。そして、それらを取りまく各所には堀切・台状地が配され、城跡の規模は東西350メートル、南北300メートルをはかる。

## 国指定史跡 阿坂城跡・附高城跡・枳城跡

阿坂城は、伊勢平野を一望できる標高約300メートルの山頂にある。

戦いに明け暮れた南北朝時代の正平7年(1352)の史料に阿坂城の名が先ず見え、続く15世紀初め、応永年間には北畠満雅が足利軍と戦い、この城に籠もった。その時、水を断たれて難儀した北畠軍は苦肉の策として白米を馬の背に流して水のように見せて敵を欺き退却させたことから、白米城とよぶようになったという。

その後、永禄12年(1569)8月、織田信長が大軍を率い、南伊勢に侵攻した際、家臣大宮入道含斎翁が立て籠もったが、木下藤吉郎らによって攻め落とされてしまい、長く北畠氏の重要拠点となった城もついに廃城となった。

城跡は東西180メートル、南北330メートルの範囲に及び、南北二郭からなる。南郭は白米城とよばれ、25×30メートル、高さ12メートルの台状地と、一段低い周囲に小さな台状地と堀切をもつ。松阪市街地から遠望して山頂に台形をいただいた形は南郭に当たる。そして、南郭から

北へ250メートル離れて北郭があり、地元では椎之木城とよんでいた。東西の幅50メートル、南北の長さ150メートルと規模は南郭より一段と大きく、連続する3か所の台状地の周囲に土塁と堀切を備えている。郭の構成も複雑であり、規模から考えて北郭が阿坂城の中心部分であったと思われる。

なお、城から東北東1.4キロメートルの丘陵先端部に高城、南東1キロメートルの丘陵尾根に枳城があり、ともに阿坂城の防備を固めた出城であったと思われる。

また、北東の山裾、本城跡の登り口に当たる所には北畠政勝の援助によって建立された浄眼寺があり、北畠氏の菩提寺となっている。



▲阿坂城跡(南郭にある石碑)